

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活環境論（インテリア論を含む） Life Environment Plan		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(福祉住環境コーディネーターユニット必須)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ、障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ、障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保	福祉棟3階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
<p>少子・高齢化が進行する現代日本では、障害のある無し、高齢や子どもにかかわらず、誰もが快適に生活し、社会生活に参加できる環境が必要となる。そのためには、すべての人にとって機能的で魅力あるユニバーサルデザインが推奨され、福祉住環境に関する専門知識を持った人材が必要となる。</p> <p>この科目では介護保険制度や障害者総合支援法などの法制度や、対象者の身体機能や生活状況に応じた、福祉住環境整備に関する知識を学び、福祉住環境コーディネーター3級の資格取得を目指す。</p>				
授業の目標				
<p>高齢者や障害者、家族の生活全体をアセスメントし、本人が自立した生活をおくることができるように、福祉住環境整備に関する知識や、福祉用具を活用し、快適な住環境について、自ら発見し、提案することができる。</p> <p>また、福祉住環境コーディネーター3級の資格取得を目指す。</p>				
授業の方法				
<p>授業の形態は講義及び演習を取り入れる。またアクティブラーニングの手法を用いて、グループワークやフィールドワークを取り入れ、自ら利用者の状況や環境についてアセスメントをおこなう。「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」について、試験の対策もおこない、資格取得を目指す。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>身体機能や生活状況に応じた福祉住環境に関するアセスメントをおこない、介護保険制度や障害者総合支援法等、福祉に関する制度を知り、福祉の専門職として活用することができる。</p> <p>「福祉住環境コーディネーター3級」を取得することで、福祉住環境に関する基礎的知識を身につけることができる。</p> <p>また上位資格である2級を将来取得することで、介護保険制度での住宅改修における意見書の記載も可能となり、仕事の幅を広げることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 暮らしやすい生活環境を目指して 「少子高齢社会と共生社会」			
第2回目	暮らしやすい生活環境を目指して 「福祉住環境整備の重要性・必要性」 「在宅生活の維持とケアサービス」			
第3回目	健康と自立をめざして 「高齢者の健康と自立」			
第4回目	健康と自立を目指して 「元気な高齢者を目指すために必要な食事、運動」 「障害者が生活の不自由を克服する道」			
第5回目	バリアフリーとユニバーサルデザイン 「生活を支えるさまざまな用具」			
第6回目	安全・安心・快適な住まい「住まいのたの整備のための基本技術」段差、手すり、建具			

第7回目	安全・安心・快適な住まい「住まいのたの整備のための基本技術」家具、冷暖房、非常時、メンテナンス	
第8回目	生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい 移動、排泄、家事	
第9回目	安心できる住生活とまちづくり「ライフスタイルの多様化と住まい」「安心できる住生活」	
第10回目	福祉住環境コーディネーター3級 過去問小テスト①（教材参照可）	
第11回目	福祉住環境コーディネーター3級 過去問小テスト②（教材参照可）	
第12回目	福祉住環境コーディネーター3級 過去問小テスト③（教材参照可）	
第13回目	福祉住環境におけるフィールドワーク① 「福祉プラザもしくはイオン等」において、実際の住環境及び福祉用具について学ぶ	
第14回目	福祉住環境におけるフィールドワーク② 「福祉プラザもしくはイオン等」において、実際の住環境及び福祉用具について学ぶ	
第15回目	福祉住環境についてのまとめ	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。間違った問題については、次回までに確認し、正答に直すこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に挑むことができるか評価の基準とする。
レポート		
調査報告書		
小テスト	20%	過去問小テストを3回実施する。
試験	60%	福祉住環境コーディネーター3級の試験に準じた択一式の問題及び論述。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』 改訂5版 東京商工会議所発行		
履修上の留意点・ルール		
<p>●実務経験（職種：介護支援専門員（ケアマネジメント）、職歴：通算1年5ヶ月） 授業時には、テキスト本は必ず持参のこと。授業に関係のない物品の授業中の使用を禁止する。また、積極的に授業に参加する事。</p>		